



地域で共に育ち合う子育て環境づくりに取り組む、北原 万里子（きたはら まりこ）さんに、話を伺いました。北原さんは、「NPO 法人びーのびーの」の事業の1つである「地域子育て支援拠点どろっぷ」（港北区からの運営委託）で活動しています。

サービス業から、子育て支援の道へ

大学を卒業した後、サービス業の道に進みました。人と接することが好きだったので、子どもからお年寄りまで、老若男女が訪れる場で働きたい、という思いからホテルという場を職場に選択しました。でも、大学生のころから関心があった、子どもと関わりたいという気持ちも捨てきれず、働くうちに、「子ども関係の仕事をしたい！」という思いがだんだん膨らんでいました。そんなあるとき、「子どもの遊び場や居場所がない」、「母親の居場所がない」という話を耳にしました。そのような子どもや子育て家庭に、何か私ができることはないのか。勉強をし直して、また子どもと関わりたい！その思いから、勤務4年目で職場を離れ、大学に編入しようと決心しました。

きっかけは、キャンプの引率ボランティア

大学生の頃、高校時代の陸上部の顧問に誘われ、キャンプの引率ボランティアをしていました。そのキャンプは、小学生から高校生までが、自然の中で一週間過ごし、様々なプログラムに挑戦するというものでした。もともと自然の中で泥んこになって遊ぶことが好きだったので、大変でしたが、すごく楽しく過ごしました。そのときの出来事や、子どもと過ごすのって楽しいけど大変なことだ、親ってすごいな、子どもや親が安心して過ごせる場所が沢山あったらいいな、といった感覚が、心に残っていたのだと今になって思っています。陸上部の顧問がいなかったら、今私はここにいないかもしれない。あのとき、「行って見ないか？」と声をかけてくれた顧問に、とても感謝しています。

大学の実習で、「びーのびーの」を知る

「NPO 法人びーのびーの」は、地域で共に育ち合う子育て環境づくりを目指した法人で、「どろっぷ」は子育て支援拠点です。「びーのびーの」には、2年前に初めて大学の授業実習で関わりました。

訪れて驚いたのは、「どろっぷ」では、親子とスタッフだけではなく、いろいろな人が、得意なことや持ち味を活かし、多様な形で関わっているということです。学生、地域住民、子ども・子育て関係のその他組織や機関、企業などと、地域で一体となって、子ども・子育て家庭を見守り、必要なサポートしようとする姿勢に感激しました。

例えば、春・夏休みなどに中・高・大学・専門学生が、区内の保育園・子育てサロン・公園遊びのグループ・高齢者施設でのボランティア活動のきっかけづくりに向けた事業を行っています。

関係機関・組織と連絡を取り合うことで、地域の中でこの事業が共有され、定着していく様子はとても印象的でした。

「どろっぷ」は、親子の居場所(ひろば)事業のみならず様々な事業を行っています。例えば、相談事業・子育て情報の収集発信事業・ネットワーク事業・人材育成事業・子育てサポート事業(子どもを預かってほしい人と、子どもを預かる人が会員登録をして、地域ぐるみの子育ての支え合いを進める。条件の合う近隣の方との出会いをサポートしている。)などです。

利用者の方々や当事者の方の声や現状にアンテナを立てて、「子ども・子育て家庭にとって」という視点に立ち返り事業を進めていく様子を垣間見て、どれも必要なものだと感じています。

素人のわたしが学んだこと

前記の事業では、実習後インターンとしてボランティア予定の学生のオリエンテーション企画や体験先への同行、最後の交流会まで関わらせて頂きました。学生にとって私は、ちょっと気さくなお姉さんで近づきやすい存在となり、学生がより安心してボランティアに取り組める雰囲気や環境づくりができたなら良いなと思っていました。こうした学生とのつながり方ができるのも、素人ならではのことなのかもしれません。

その後、非常勤職員として半年間、学生とボランティア体験先のコーディネートや、パパのためのプログラムに関わらせて頂いたのが印象的です。パパ目線の子育てマップを作成するためのワークショップでは、「カブトムシ採取スポット」など子どもと出掛けられるパパお薦めスポットなど、40カ所強の情報が集まりました。また、地域について、地域との関係の中で子育てをするパパの意見を伺う貴重な機会となりました。父親・夫としての役割や仕事場・家庭・地域など様々な立ち位置で揺れ動きいろ



<公園あそびへの同行>



<「どろっぷ」で子どもと戯れる北原さん>

いろいろな思いや考えを抱くパパのお話は私にとって新鮮であると同時に、大変勉強になりました。そして、こうしたつながりや機会・場所の重要性を実感しました。

自分は子育てをしたことはありませんし、子育てに関する知識も充分ではありません。

これからこの道に進もうとしている身としては、さらに勉強を続ける必要がありますが、ボランティア活動としては、これから子育てするであろう私の、利用者の方々に近い立場だからこそできることもあるのではないかと考えるようになりました。

現在担当しているのは、主にひろばスタッフの業務です。利用者の方々のお話を聴いたり、子どもと遊んだり、プログラムのサポートやひろばの環境面の配慮をすることも大切な仕事の一つです。利用者の方々にとっても、気軽に話しかけやすい存在でありたいと心がけています。何気ない会話の中で、利用者の方々から、「ちょっと気が楽になった。」という言葉ももらうこともあります。利用者の方々のお顔を笑われた時はうれしいし、時に他のスタッフも交えて談話しながら何か一緒に解決のヒントを見つけたり、考えるきっかけとして役立てれば、と思ったりもしています。また、子どもたちやママ・パパたちが、私をあだ名で呼んでくれたとき、利用者の方々にとって近い存在になれたな、と喜びを感じます。そして、そんなひと時を大切にしたい、と思っています。

やりがいは、利用者の方々からの声

活動をしている中で、「こういう場所があって、本当に助かっている。」「ここがなかったら、行く場所がなかった。」という利用者の方々のお声を聞くことができます。ずっと子どもと向き合い、お母さんやお父さんは疲れてしまうこともあると思います。

利用者の方々のお居場所に寄り添う一人として関わっていると実感できるときに、やりがいを感じます。自分が母親となったとき、あってほしいと思う場が、ここにはあります。

「どろっぷ」は、気軽に行き来でき、利用者の方々やボランティア、スタッフも一緒にあって創っていく、そんな場所です。自分たちで使ったものは、片づけるというルールも共有され当たり前になっていたり、いろいろな人が主体的かつ協力しながら活動しています。利用者の方々も、いろいろな思いや目的を持ってやって来ていると思います。ゆったりと過ごしたいと思って来たり、いろいろなプログラムに参加したり、ひろばでの活動を楽しんだり、おもしろおもしろに活動しています。

また、子育てや仕事が一段落した、Sボラさん(ボランティアのことで、人生の先輩・素敵・スーパーといった意)との関わりからも、学ぶことが多くあります。そして、Sボラさんからは「子どもやパパ・ママから元気をもらえる」との声を聞きます。ひろ



< 学生交流会でのカレーづくり >



< ボラリーグ活動終了後の交流会 >

ばに来ることで、地域内の人と人との温かな輪が、じっくりと確実に広がっているのだと実感しています。

何よりも、素敵だと思うのは利用者の方々が、ひろばなどを含む子育て支援の担い手となっていることです。お母さんの多くは、子どもが大きくなってからも、ボランティアとして関わり、担い手として活躍します。地域で子どもを育てるといふ、一体感を日々感じています。

一人の女性として

「どろっぷ」で働いているスタッフは魅力的で、私にとっては目標となる存在です。子育て中の方も多く忙しいはずなのに、ひろば以外の事業や地域の連携に関わる仕事も同時にこなすスタッフたちを見ていると、自分も頑張ろうという気持ちになります。

私は大学にも通っているのですが、「大変でしょ？」と聞かれることがありますが、大変なことは特にありません。忙しい時期は、勉強との両立を考えなくてはなりませんが、なじみやすい居心地のよい場所ですし、とても楽しく活動しています。ただ、地域を知らないということで戸惑うことがたまにあります。だから、もっとこの地域のことや人を知っていききたいと考えています。

私も、いずれ結婚し、出産、子育てを経験することになると思います。先ことは、わかりませんが、自分がお母さんになったら、絶対にひろばに行きたいという気持ちです。利用者として、担い手として、ずっと関わっていききたいです。

つながりを創っていききたい

ひろばは、開かれている場です。地域の人々や大学生など、いろいろな人と関わるよさがあります。そうしたつながりを創っていききたい。社会の子育ての環境、家庭をとりまく子育ての環境、まだまだ知りたいことが多々あるので、勉強していききたいと思っています。

今は、社会福祉士の資格取得に向けて勉強をしています。具体的には、定まっていますが、お母さんたちが、追いつめられないようにする、予防の段階から子ども・子育て家庭に関わっていききたいという気持ちでいます。私は、びーのびーので地域の様々な人々と出会い、いろいろな角度から子ども・ママ・パパ・地域の人々と関わらせていただいたことで、沢山のことを学ばせ頂きました。また、このような機会・場に携われたことにとても感謝しています。

これから、こうしたボランティア活動をしたい人へ伝えたいことは、とりあえず、連絡してみて、足を運んでほしいということです。私を感じ取ったように、言葉では言い表せない地域人々のつながりがここにあります。一歩を踏み出すこと、それが、いつの間にかつながりになっている。そのように、私は感じています。

編集後記

「どろっぷ」での取材中、利用者の方々からとても慕われている北原さんの様子がありました。北原さんの、穏やかな人柄と想いが、地域のつながりを創っているように思います。

◆団体概要

NPO 法人びーのびーの <http://www.bi-no.org/top.html>

「地域で共に育ち合う子育て環境づくり」を目指して、港北区内にて主に0~3歳の乳幼児とその親のための子育て支援施設「おやこの広場にびーのびーの」、「港北区地域子育て支援拠点どろっぷ」を拠点に置き、様々な事業を展開しています。